

拒絶理由通知書

Office Action

特許出願の番号	特願 2000-384450
起案日	平成15年11月14日
特許庁審査官	藤原 浩子 9155 4V00
特許出願人代理人	細田 芳徳 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第29条の2、第39条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の特許に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。
2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の特許に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。
3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許（実用新案登録）出願であって、その出願後に特許出願公告（特許掲載公報の発行又は実用新案掲載公報の発行）又は出願公開がされた下記の特許（実用新案登録）出願の願書に最初に添付された明細書又は図面に記載された発明（考案）と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許（実用新案登録）出願に係る上記の発明（考案）をした者と同一ではなく、またこの出願の時において、その出願人が上記特許（実用新案登録）出願の出願人と同一でもないので、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。
4. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願日前の下記の出願に係る発明と同一であるから、特許法第39条第1項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

(理由1～2)

請求項1～5 引用例1～2

・備考

引用例1には、水、 α -アルミナ及び酢酸（「化合物群A」に相当）で安定化したアルミナゾルを含有する磁気ディスク基板研磨用組成物において、アジピン酸、マレイン酸、フマル酸（「化合物群B」に相当）等の有機酸を添加することが記載されている（特許請求の範囲、第1表-2）。

引用例2（請求項1）には、研磨液において、有機酸及びキレート剤を含有することが開示され、有機酸としてクエン酸等（「化合物群A」に相当）、キレート剤としEDTA（「化合物群B」に相当）が記載されている。

引用例1～2の記載に基づいて適当な有機酸を用いることは当業者が適宜なし得る事項にすぎない。

（理由3）

請求項1～5 先願3～5

・備考

先願明細書3には、付着抑制剤であるクエン酸（「化合物群A」に相当）に加えて、アミノ酸（「化合物群B」に相当）を添加した研磨用スラリーが記載されている（表1）。

先願明細書4（表4No.20）には、グルタル酸とクエン酸、研磨材及び水を含有する研磨材組成物が記載されている。

先願明細書5には、グルタル酸、クエン酸、及びグシリンを含有する研磨材組成物が記載されている（実施例14～19）。

（理由4）

請求項1～5 先願6

・備考

先願明細書6の特許請求の範囲には、化合物A群、化合物B群、水及び研磨材を含有する研磨材組成物が記載されている。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開2000-063805号公報 (already filed)
2. 特開平07-070553号公報
3. 特願平11-374484号（特開2001-187879号公報参照）
4. 特願平11-374483号（特開2001-187878号公報参照）
5. 特願平11-374487号（特開2001-189296号公報参照）
6. 特願2000-384456号（特開2002-012855号公報参照）

優先日 平成12年4月28日

補正する際には、新規事項の追加とならないように留意し、補正の根拠となる出願当初明細書又は図面に記載されたどの事項から導き出されるのかを説明されたい。

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C 第 7 版 C09K3/14, G11B5/84, B24B37/00

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせのご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第 3 部 応用有機材料 藤原 浩子

TEL. 03(3581)1101 内線3483 FAX. 03-3501-0698